

事例 8 「音声から文字へ」の順序を踏まえ、段階的に読むことに慣れ親しませることをねらった事例

○学年 第5学年

○主な領域 「話すこと [やり取り]」「読むこと」

○事例のポイント

- ①「聞くこと」「話すこと」といった音声による「インプット⇒アウトプット」の流れを大切にしながら、音声と文字を関連付ける「読むこと」の指導を行う。
- ②事前に音声十分に慣れ親しませ、児童に文字を提示する英語表現については、意味内容ある程度把握できる状態にしておく。
- ③「読むこと」の指導を行う際、「文字情報の提示⇒音と文字を一致させる段階の確保⇒文字の音声化⇒意味内容の抽出」といった段階を踏んだ指導を行う。

ICTを活用した主な学習場面

児童ごとの実態に応じた量の音声インプットを提供する。

ICT活用の利点

- ①「読むこと」の段階に進む前に、必要な音声インプットの量を児童ごとに調整できる。
- ②「音と文字の一致」を図る活動量を児童ごとに調整できる。
- ③自らのパフォーマンスを、モデル音源と比較しながら児童自身で振り返ることができる。

1 単元名 Lesson 4 I can draw pictures well. もっと自分を知ってもらおう。

2 単元について (略)

3 児童の実態と本単元の意図 (略)

4 単元の目標

同僚の先生たちともっと仲良くなりたい ALT に、先生たちのことをより詳しく知ってもらうために、先生たちのできることやできないことなどについて、ALT に伝えたり質問に答えたりすることができる。

- ・助動詞 can や代名詞を用いて、できることやできないことについて、ALT に伝えたり、質問に答えたりすることができる。 (知識及び技能)
- ・先生たちのことをより詳しく知ってもらうために、先生たちのできることやできないことなどについて、聞き取ったり読み取ったりした具体的な情報を、ALT に伝えたり質問に答えたりする。 (思考力, 判断力, 表現力等)
- ・先生たちのことをより詳しく知ってもらうために、先生たちのできることやできないことなどについて、聞き取ったり読み取ったりした具体的な情報を、ALT に伝えたり質問に答えたりしようとしている。 (学びに向かう力, 人間性等)

5 単元の評価規準



(本単元における「聞くこと」及び「話すこと [発表]」、「書くこと」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。)


	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと「やり取り」 （や）	<p>〈知識〉</p> <p>①スポーツや楽器を表す語句や I [You/He/She] can ～ (play soccer). Can you [he/she] ～ (play soccer)? 等の表現と、その答え方について理解している。</p> <p>〈技能〉</p> <p>I [You/He/She] can ～play soccer). Can you[he/she]～ (play soccer)?を用いて、伝えたり質問に答えたりする技能を身に付けている。</p>	<p>①先生たちのことをより詳しく知ってもらうために、できることやできないことなどについて、聞き取ったり読み取ったりした具体的な情報を、ALT に伝えたり質問に答えたりしている。</p>	<p>①先生たちのことをより詳しく知ってもらうために、できることやできないことなどについて、聞き取ったり読み取ったりした具体的な情報を、ALT に伝えたり質問に答えたりしようとしている。</p>
読むこと （読）	<p>〈知識〉</p> <p>①スポーツや楽器を表す語句や I [You/He/She] can ～ (play soccer).の表現、基本的な符号について理解している。</p> <p>〈技能〉</p> <p>②できることやできないことについて、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現で書かれた紹介文を読んで、意味が分かるために必要な技能を身に付けている。</p>		

6 単元計画

全8時間のうち、第1時から第3時では、できることやできないことについて、文字情報を提示せず、「聞くこと」や「話すこと」を通して、段階的に音声と意味内容を紐づけながらやり取りをする活動を行う。音声に十分慣れ親しんだ第4時で、文字を提示し、読むことの指導につなげていく。なお、本事例では、全8時間で単元を組み立てているため、第4時に代名詞 (he/she) を音声のみで導入している。児童の実態に応じては、全9時間構成とし、第5時から代名詞を扱うことも考えられる。

時	◆目標・○活動	評価		
		知・技	思・判・表	態
1	◆できることやできないことについて、まとまった話を聞いて具体的な情報を聞き取ることができる。			◎評価規準〈評価方法〉

<ul style="list-style-type: none"> ○ Chatting <ul style="list-style-type: none"> ・既習表現を使ったおしゃべり ○ 単元の見通しをもつ。 ○ Small Talk <ul style="list-style-type: none"> ・視覚教材などから話の概要を想像しながら、話を聞く。 ○ 【Let's Watch and Think 1】 ○ 【Let's Play 1】 <ul style="list-style-type: none"> ・ポインティング・ゲーム ○ 【Let's Listen 1】 ○ 【Sounds and Letters】 		<p>※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価はしない。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 編 P149 指導計画の作成の留意事項(2) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 事例のポイント① 第1時では、ALTやHRTの話を書くことで、音声によるインプットを図っている。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 事例のポイント① 前時の音声情報を聞き取る（インプットする）段階から、第2時では、児童に返答（アウトプット）を求める活動の段階へとつなげていく。 </div>
<p>2 ◆できることやできないことを伝える表現や、尋ねたり答えたりする表現が分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Chatting ○ Small Talk <ul style="list-style-type: none"> ・具体物（けん玉など）を活用し、できることなどに関する話を聞いたり、質問に答えたりする。 ○ 【Let's Watch and Think 2】 ○ 【Let's Listen 1】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用デジタル教科書の活用 ○ 【Let's Play 3】 ○ 【Sounds and Letters】 		<p>※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価はしない。</p> 
<p>3 ◆できることやできないことを伝える表現や、尋ねたり答えたりする表現が分かり、伝え合うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Chatting ○ Small Talk <ul style="list-style-type: none"> ・前時と同内容とする。 ○ 【Activity 1】 <ul style="list-style-type: none"> ・音声でのやり取り活動を行う。 ○ 【Let's Listen and Read 1】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用デジタル教科書の活用 ○ 【Sounds and Letters】 		<p>※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価はしない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 事例のポイント② 第3時までに音声で十分に慣れ親しんだ表現について、第4時では文字情報を児童に提示していく。 </div> 
<p>4 ◆できることやできないことについて、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現で書かれた紹介文を読んで、意味が分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Chatting ○ Small Talk <ul style="list-style-type: none"> ・He / She が多用されているやり取りを聞きながら、三人称の表現に慣れ親しむ。 ○ Main Activity 	読 ① ②	<ul style="list-style-type: none"> ◎スポーツや楽器を表す語句や I [You/He/She] can ～(play soccer). の表現、基本的な符号について理解している。 ◎できることやできないことについて、音声で十分に慣れ親しんだ語句

	<ul style="list-style-type: none"> ・「この先生はだれ？クイズ」 （「聞くこと」⇒「読むこと」） 			<p>や表現で書かれた紹介文を読んで、意味が分かるために必要な技能を身に付けている。</p> <p>〈行動観察・録画・振り返りカード〉</p>
5	<p>◆He /She を使ってできることやできないことを伝える表現や、尋ねたり答えたりする表現が分かり、伝え合うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Chatting ○ Small Talk <ul style="list-style-type: none"> ・ He / She が多用されているやり取りを聞いたり答えたりしながら、三人称の表現に慣れ親しむ。 ○ Main Activity <ul style="list-style-type: none"> ・ 「友達の得意なことを紹介しよう」（話すこと [やり取り]） ○ 【Let's Listen and Read 2】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者用デジタル教科書の活用 ○ 【Let's Write 2】 ○ 【Sounds and Letters】 	<p>や</p> <p>①</p>		<p>◎スポーツや楽器を表す語句や I [You/He/She] can ~(play soccer). Can you [he/she] ~(play soccer)? などの表現と、その答え方について理解している。</p> <p>〈行動観察・録画・振り返りカード〉</p>
6	<p>◆先生たちのことをより詳しく知ってもらうために、できることやできないことを含む、聞き取ったり読み取ったりした具体的な情報を、聞き手に伝えたり質問に答えたりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Chatting ○ Small Talk <ul style="list-style-type: none"> ・ 本単元を含む、これまでの既習表現を使い、やり取りを行う。 ○ Main Activity <ul style="list-style-type: none"> ・ 「担当する先生を紹介しよう」（話すこと [やり取り]） ○ 【Sounds and Letters】 	<p>や</p> <p>②</p>	<p>◎できることやできないことについて、伝えたり質問に答えたりする技能を身に付けている。</p> <p>〈行動観察・録画・振り返りカード〉</p>	<p>ICT活用の利点③ 自ら（互い）のパフォーマンスを録画しておくことで、次時では、モデル音源等と比較しながら、パフォーマンスを客観的に振り返ることができる。</p>
7	<p>◆前時に行った、担当する先生たちを紹介する自身のパフォーマンスを振り返り、より良いパフォーマンスにするための方法を考えようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Chatting ○ Small Talk <ul style="list-style-type: none"> ・ 本単元を含む、これまでの既習表現を使い、やり取りを行う。 ○ Main Activity <ul style="list-style-type: none"> ・ 「友達のパフォーマンス分析」（聞くこと）⇒「話すこと [や]」 ○ 【Sounds and Letters】 			<p>※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価はしない。</p>

8	◆ALT に、先生方のことをより詳しく知ってもらうために、聞き取ったり読み取ったりした具体的な情報（できることやできないことを含む）、聞き手に伝えたり質問に答えたりしている。			
	○ Chatting ○ Final Activity ・「ALT に先生を紹介しよう」 （「話すこと [やり取り]」） ○ 単元末の振り返り		や ①	や ①
*後日、本単元での児童の学びによる変容を見とるために、以下の2種類のテストを実施する。 ① パフォーマンステスト：ALT と児童の1対1の形式で、インタビュー（やり取り）を行う。 ② ペーパーテスト：「聞くこと」の領域の「知・技」「思・判・表」、「読むこと」の領域の「知・技」を見取る。				

7 本時の展開



目標 できることやできないことについて、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現で書かれた紹介文（文字）を読んで、意味が分かる。

準備 ICT端末…ICT Word Book…WB 絵カード…絵カ 具体物…具体物
 大型モニタ…モニタ 単元構想図…構想図 文字原稿…原稿 Worksheet…WS
 振り返りカード…振カ

○本時の展開（4／8）

時間	○児童の活動	・指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
3分	○Greetings 英語で挨拶をする。	・教師から学級全体や児童それぞれに、さらに児童同士でも挨拶を行う。	
【Daily Question (例)】 How are you? / What is the date today? / What day is it today? How is the weather? / What time is it now?			
10分	○Chatting（1分×3セット） ・トピックシート（ICT端末）（★参考資料★①参照）や Word Book を活用しながら、英語を使いペアの友達と自由におしゃべりする。	・既習表現を使い、英語でやり取りを行う時間を設ける。言語表現を限定しすぎず、英語で自由にやり取りする楽しさを児童に感じさせる。 【第5学年での既習表現】 Lesson 1 My name is (). How do you spell your name? What () do you like? - I like / don't like (). Lesson 2 When is your birthday? - My birthday is (). Do you like ()? - Yes, I do. / No, I don't. Lesson 3 What do you have on ()? - I have (). What do you want to be? - I want to be ().	ICT WB



5分	<p>○Small Talk</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本単元での既習表現や、He/She が多用されているやり取りを聞きながら、三人称の表現に慣れ親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードや具体物を活用しながら、できることやできないことに関する話を聞いたり、質問に答えたりする。さらに、本時の指導事項の1つである He/She (三人称) を使った表現についても、意図的に使用しながら、児童の中に音声によるインプットを蓄積していく。 	<p>絵カ 具体物</p>
2分	<p>○Today's Goal</p> <p>本時のめあての確認を行う。</p> <div data-bbox="272 618 1294 734" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>みなさんは、〇〇小の先生たちのことをどれくらい知っている？ - A～D の4名の先生の正体を見破ろう！ -</p> </div> <div data-bbox="336 775 778 913" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>編 P149 指導計画 作成の留意事項 (2)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元構想図 (★参考資料★②参照) を児童と共有することで、児童が単元末の言語活動に向かって、主体的に学習を進めることができるようにしていく。 	<p>構想図</p>
20分	<p>○Main Activity</p> <p>① 活動の説明を聞く。</p> <div data-bbox="316 1081 783 1272" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <p>② ALT が読み上げる4人の先生たちの情報 (音声情報) を聞く。</p> <div data-bbox="272 1406 1414 1675" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>HRT : Are you ready? First, teacher A. ALT : He can walk on "takeuma". He can't ride a unicycle. He can play the recorder. He can't play the piano. He can play soccer well. He can play table tennis. Who is he? HRT : Next, teacher B. ALT : She can play "kendama". She can't ride a unicycle. She can play the piano. She can cook very well. She can't swim fast. She can sing very well.</p> </div> <p>③ A～D がそれぞれどの先生に関する情報かを、グループで推測する。</p> <div data-bbox="400 1827 746 2112" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div>	<div data-bbox="799 1010 1406 1227" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント② Main Activity の②～④の段階で、十分に音声に慣れ親しませ、ある程度、意味内容を把握させる。こうすることで、⑤以降、インプットされた音声と文字が一致させやすくなる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・A～D の4人の先生に関する情報を、音声で一度に児童に提示する。 ・まとまった量の情報を、一度に児童に提示したり、友達との話合いで意見が割れたりする状況をあえて作り出したりすることで、⑤の段階で、児童が文章 (文字情報) に触れる必要感を作り出す。 	<p>モニタ</p>

④ ②と③を何度か繰り返す。

【予想される児童の反応】

S1: 先生、こんな多い量の情報は覚えられません。

S2: みんなの意見がバラバラで、分からなくなっていました。

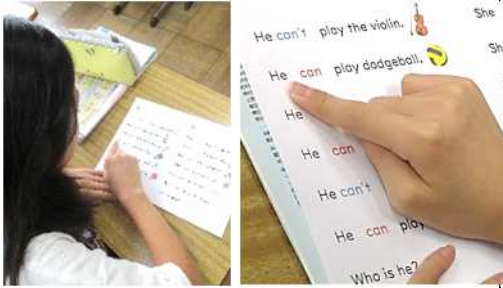
HRT: そうなの。では、皆さんはどうしたいですか？

S3: ALTの先生が持っている原稿を、私たちももらえませんか？

⑤ 文章（文字情報）を手にする。

⑥ なぞり読み（音と文字の一致）

- ・ALTの読み上げる英語の音声を聞きながら、該当箇所を指で追っていく。



- ・音声のインプットが十分に足りていない場合、ICT端末で音声を聞きながら、⑥の段階（音と文字の一致）をくり返し行う。

ICT活用の利点①

児童によってアウトプットまでに必要な音声によるインプットの量が異なるため、ALTのモデル音源を用意しておき、児童が自己の学びを調整しながら、アウトプットにつなげられるようにする。

⑦ 文字を指で追いながら、声に出して文章を読む（音声化する）。



- ・聞こえてくる音声と文字を一致させて、「音と文字の関係」を感覚的に気づかせる。これを繰り返していくことで、徐々に音声と文字とを関連付けていく。

原稿

A

He can walk on "takeuma".

He can't ride a unicycle.

He can play the recorder.

He can't play the piano.

He can play soccer well.

He can play table tennis.

Who is he?

(A先生を紹介する配付原稿)

事例のポイント③

児童に文字原稿（文字情報）を与えた後、「⑤文字情報の提示⇒⑥音と文字を一致させる段階の確保⇒⑦文字の音声化⇒⑧意味内容の抽出」といった、段階を踏んだ指導を行っていく。

ICT

ICT

- ・「音と文字の一致」が図られた後に、実際に文字を音声化（しよう）させる。その際、視覚情報や背景知識等も頼りに文字を音声化させて、意味を推測しながら読むことへとつなげていく。

ICT活用の利点②

文字を音声化する過程で、読み方が分からない単語や表現があった場合に、くり返しモデル音声に戻り、「音と文字の一致」を図っていく。



⑧ A~Dが、それぞれの先生に関する情報なのかを決定して、ワークシートに自らの考えを記入する。



⑨ 内容の確認を行う。



5分

○Reflection

振り返りカードに記入する。

編 P149 指導計画
作成の留意事項(2)

○Greetings

◎スポーツや楽器を表す語句や I [You/He/She] can (play soccer).の表現、基本的な符号について理解している。【知・技】読①
〈行動観察・振り返り〉

◎できることやできないことについて、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現で書かれた紹介文を読んで、意味が分かるための必要な技能を身に付けている。【知・技】読②
〈行動観察・録画・振り返りカード〉

- ・ 4線上に正しく大文字・小文字を書くことができるように、段階的に文字指導を行っていく必要がある。
- ・ 訓令式ローマ字と異なる、ヘボン式ローマ字特有の書字ルールである、「し (shi)」や「つ (tsu)」等を名前にもつ教員を意図的に選ぶことで、児童の中に、ヘボン式ローマ字の書字ルールを段階的に構築していく。

- ・ 全体で内容確認の後、A~Dがそれぞれの先生かが分かった状態で、再度、4名の紹介文を児童に聞かせる。こうすることで、「〇〇先生って、こんなことができるんだ」など、意味のある文脈の中で、再度、音声や文字でのインプットを与えることができる。

- ・ 振り返りカードを記入させる際、再度、児童に単元末の言語活動を意識させたり、前時からの変容や次時に向けた目標等を考えさせる。
そうすることで、児童は自らの本時の学びを多角的に振り返ることができ、学びの自己調整を促すことにつながる。(詳細は以下を参照)

WS

振力

《児童の「振り返りカード」への記入内容の抜粋》

振り返りカードの柱を、「① 本日の授業全体を通した学び」と、「② 読み書き（文字言語）に限定した学び」の2本に絞り、自身の学びを客観視させる十分な時間を確保している。以下の記述内容を見ても、児童が自らの学びを振り返る中で、主体的に学びと関わりながら、次の授業や単元末の言語活動に向けて、自己の学びを調整しようとする姿を見ることができる。

● 9/25 (Wednesday)

今日のめあて ・ 小の先生のことをどれくらい知ってる？

★今日の授業で学んだこと・できるようになったこと・楽しかったこと・もっと知りたいこと

え、で先生のこともどくらい知ってるか、授業をやった。男はHEと言って、女はSHEということがわかりました。

★英語を「読み・書き」を行う活動で、成長を感じたこと・楽しかったこと・頑張りたいこと

《今日のふり返りの視点：読むこと・書くこと》

★当てはまるものを1つ選びましょう。

イラストを見ながら、カネリ読みとすることに、少しずつ慣れていき、あせらずにやり、楽しかった。どちらかと言えば楽しかった。どちらとも言えない。どちらかと言えば楽しかった。楽しかった。

今日「イズ」をやってみて思ったことは、おんなことどくらい知っているという授業やりかた、イラストを見ながら、カネリ読みとすることに、少しずつ慣れていき、あせらずにやり、楽しかった。どちらかと言えば楽しかった。どちらとも言えない。どちらかと言えば楽しかった。楽しかった。

● 9/26 (Thursday)

● 9/25 (Wednesday)

今日のめあて ・ 小の先生のことをどれくらい知ってる？

★今日の授業で学んだこと・できるようになったこと・楽しかったこと・もっと知りたいこと

今日の授業で「He」は男、「She」は女、男のことがわかりました。2人ペアで3分、日本語はあまりないけれど、担当の先生は

★英語を「読み・書き」を行う活動で、成長を感じたこと・楽しかったこと・頑張りたいこと

《今日のふり返りの視点：読むこと・書くこと》

★当てはまるものを1つ選びましょう。

(楽しかった・どちらかと言えば楽しかった・どちらとも言えない(どちらかと言えば楽しかった・楽しかった))

なぞり読みは、たまたま場戸をまらえるけど、だいたいは、てきまつ音読は、にがてな英語はあるけど、その他は、できるのだから、たくさん英語を矢印したいです。

● 9/25 (Wednesday)

今日のめあて ・ 小の先生のことをどれくらい知ってる？

★今日の授業で学んだこと・できるようになったこと・楽しかったこと・もっと知りたいこと

男の人はHe、女の人はSheということがわかりました。HeとSheは、どっちかどすたか分からなく、なぞり読みと音読を合わせた方がいいです。

★英語を「読み・書き」を行う活動で、成長を感じたこと・楽しかったこと・頑張りたいこと

《今日のふり返りの視点：読むこと・書くこと》

★当てはまるものを1つ選びましょう。

(楽しかった・どちらかと言えば楽しかった・どちらとも言えない(どちらかと言えば楽しかった・楽しかった))

なぞり読みは、どっちかどすたか分からなく、なぞり読みと音読を合わせた方がいいです。イラストのおかげで、なぞり読みと音読を合わせた方がいいです。イラストのおかげで、なぞり読みと音読を合わせた方がいいです。

● 9/25 (Wednesday)

今日のめあて ・ 小の先生のことをどれくらい知ってる？

★今日の授業で学んだこと・できるようになったこと・楽しかったこと・もっと知りたいこと

今は「She」と「He」を学びました。今日の授業で、なぞり読みと音読を合わせた方がいいです。

★英語を「読み・書き」を行う活動で、成長を感じたこと・楽しかったこと・頑張りたいこと

《今日のふり返りの視点：読むこと・書くこと》

★当てはまるものを1つ選びましょう。

(楽しかった・どちらかと言えば楽しかった・どちらとも言えない(どちらかと言えば楽しかった・楽しかった))

なぞり読み、音読も、すごくかまたんてした。イラストのおかげで、なぞり読みと音読を合わせた方がいいです。イラストのおかげで、なぞり読みと音読を合わせた方がいいです。

★参考資料★

① トピックシート（ICT端末）

小学校5・6年生で学習する語彙を、テーマごとに分類して、ALTによる音声を吹き込み、児童のICT端末に配付している。Stage 1（5年生で学習する語彙）とStage 2（6年生で学習する語彙）の2種類から構成される。毎回、授業冒頭のChattingの活動（既習表現を使ったおしゃべり）を行う際に、語彙がまとめられた教科書付属のWord Book同様、児童が自由に活用して英語での会話を行っている。これを用いることで、指導者同様、児童も小学校段階で学習する語彙について、ある程度の見通しをもつことが期待できる。

② 数字2

11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

(トピックシート：Stage 1 ②)

② 単元構想図

毎単元の冒頭に、児童と単元末の言語活動や単元を通して身に付けてほしい力、単元の進め方を共有するために配布している。

単元を通した構想を、初めの段階で児童と共有することで、児童は見通しをもつとともに、自らの学習を主体的に進めていくことが期待できる。各時間の活動における評価方法や評価規準（基準）についても、児童と共有している。

『Lesson 4 I can draw pictures well.』

《本単元でみなさんに身に付けてほしい力》

- 「できること・できないこと」などを伝え合う表現を、英語で聞いたり話したりすることができる。
- OO小の先生たちの、「できること・できないこと」などを、ALTのOO先生に詳しく紹介することができる。
- 「できること・できないこと」について伝える英文を読んで、内容を理解することができる。

《Unit 4 の最終ミッション》

同僚の先生たちともっと仲良くなりたいALTのOO先生に、先生たちのことをより詳しく知ってもらうために、先生たちのできることやできないことなどについて紹介しよう！

8時間目 (O/O)	・実践 自分が担当する先生の魅力を伝えよう！	聞・話・読・書
↑		
7時間目 (O/O)	・友達の紹介を、より良いものに進化させよう！	聞・話・読・書
↑		
6時間目 (O/O)	・実践 自分が担当する先生の魅力を伝えよう！	聞・話・読・書
↑		
5時間目 (O/O)	・友達の魅力をクラスメイトに広げよう！	聞・話・読・書
↑		
4時間目 (O/O)	・大石南小の先生のことをどれくらい知ってる？	聞・話・読・書
↑		
3時間目 (O/O)	・あなたは、クラスメイトのウソを見破れるか？	聞・話・読・書
↑		
2時間目 (O/O)	・自分のできることのアピール大会をしよう！	聞・話・読・書
↑		
1時間目 (O/O)	・あなたは、日本の伝統的な遊びができますか？	聞・話・読・書

(Lesson 4 の単元構想図)